

---

# 人間のクズ

まなつか

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

人間のクズ

### 【Nコード】

N0832X

### 【作者名】

まなつか

### 【あらすじ】

この町ではバカが多い。僕はそう、冷静に判断を下している。

毎晩毎晩同級生とはいえないくらい幼く、バカな連中等がつるんで暴走族とやらで走り回っている。そのたびに警察に通報しているが全く効果はない。そういうところだけ賢いのだろうか。

そんなことはいい。僕がここに記しておきたいのはこの間その人間のクズ。本当、国民から外してほしい。あんなやつらに平等権だの、人権だのあったこつちやない。らがやっていたことだ。僕がすることは本当に小さいことなのかもしれない。アクセス数が一

桁のブログに書いたところで何も変わりはないかもしれない。だけれど、これを読んだ人が少しでも何か考えてくれればいいと思う。

片山のブログより転載。

## 一話 始まりの、夜。

この町ではバカが多い。僕はそう、冷静に判断を下している。

毎晩毎晩同級生とはいえないくらい幼く、バカな連中等がつるんで暴走族とやらで走り回っている。そのたびに警察に通報しているが全く効果はない。そういうところだけ賢いのだろうか。

そんなことはいい。僕がここに記しておきたいのはこの間その人間のクズ。本当、国民から外してほしい。あんなやつらに平等権だの、人権だのあったこつちやない。らがやっていたことだ。僕がすることは本当に小さいことなかもしれない。アクセス数が一桁のブログに書いたところで何も変わりはないかもしれない。だけど、これを読んだ人が少しでも何か考えてくれればいいと思う。

僕はクラッカーだ。

年齢は15歳。数学と情報処理に優れているが、どこかいつも周りと違うと言われてしまう。まあ、周りがクズばかりだとそうなるか。

「……またやってるよ。あ、そろそろハードディスクがいつぱいになるな」

苦手な理科の勉強をしながら机についている6台ものモニターで奴らの行動を監視している。この町のたまり場に監視カメラをこっそり設置しては犯罪を摘発するのが僕の趣味となっていた。警察に証拠を提出すると怪しげな表情で疑ってくるが、まだなにも言われていない。

「なに……やってるんだ……？」

映し出された映像の一つに見覚えのある顔があった。

急いでペンを放り出し、キーボードにコマンドを打ち込む。そし

て拡大表示をした。

「な、なぎさ！」

僕は息をすることを忘れ、心臓を動かすことも忘れた。両手がかたかたとふるえる。自然と涙があふれ出てくる。

モニターに映し出された彼女は周りからクズ共に何か暴力をされていた。

「……嘘」

僕は我に返り、さらにコマンドを打ち込む。場所を確定。ここからすぐだ。僕は非常用のものを持ち、すぐに家を出た。机の上には万が一に備えてメモを残しておいた。

二話 クズ共を、通報せよ。(前書き)

この物語はフィクションです。

二話 クズ共を、通報せよ。

僕はそつと陰から様子を見る。

「やめて！ お願い！ お願いします！ 何でもしますからああああああああああ！！！」

耳を塞ぎたくなるようななぎさの悲鳴が聞こえてくる。なぎさは僕がずつと好きなクラスメイトだ。僕は落ち着いてケータイで警察に連絡を入れる。

「はい、警察署です」

「もし、も、もしもし……」

「はい」

「い、いま、ここで暴力を受けている人がいるんですが。男の人たちじゅう……なな名ほどで」

「わかりました。場所はどこですか？」

「はい、えーと……」

そのとき、電話を当てていた左側からすごい衝撃とともに僕は横に吹っ飛んだ。携帯は木っ端微塵となり、飛んでいく。やばい。「ようようよう！ かーたーやーまーくーん！ こんな時間に君みたいな優等生がなァーにやってんすかあ？ あ、もしかして俺らの団に入れてほしいとかあ？」

彼らは日本語をうまくしゃべれないらしい。一回病院行ってこい。僕がいいところを教えてあげる。

「なぎさをはなせ」

「ああん？」

金髪に髪を染めた彼はほかの仲間等に合図をして僕の周りを取り囲んだ。

「か、片山君！ 逃げて！」





は為すすべはない。

僕は奴らに縛られた。そして目の前にはなぎさがいる。

「やめろ……やめてくれ……なぎさだけは……」

「バカやろう、お前殺してもつまんねえからよお、おお、こいつ、こ、こここ殺してやるんだおお！」

薬物にでも手を出しているのかるれつがまわらない金髪クス。

だけど僕はなぎさのことで頭がいっぱいだった。彼女だけは助けたい。

ここらに民家は全くない。

「手始めによおー」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0832x/>

---

人間のクズ

2011年9月27日07時09分発行